



参加者集合写真(ブダペスト・国会議事堂)



理論的セッション(ソルム地区・サノ農業研究所)

「乳頭の長さ・太さ」のディスカッション
1日目午前9時～12時

28カ国から過去最多の60名が参加 世界ホルスタインフリージアン連盟 第16回世界審査委員ワークショップ

ハンガリーで
初 開



世界主要国の登録団体が加盟する世界ホルスタインフリージアン連盟(WHFF)は、去る4月15・16日の2日間、ハンガリーにおいて第16回世界審査委員ワークショップ(WSS)を開催し、28カ国から過去最多となる総勢60名を超える審査委員並びに統計学者などが参加した。

このWSSはWHFFの審査法の国際的調和が必に、前回のイタリア(2) 体形審査部門における専 要として、各国の代表 024年に続き、日本 門会議として、第1回を 者が一堂に集まり、審査 ホル協から福山審査委員 (北海道支局)と高橋審 査委員(本局)の2名が 出席した。

WSはトナ川の両岸 係について、1986年 から30年以上にわたる 国際的な調和を進めて 際、今回は体貌と骨格に ついて、体の高さや

「尻の角度」、乳房におい て「乳房の深さ」「乳頭の 配置」「乳頭の長さ」 が高い相関関係にあり、

「体の深さ」や「BCS」の 相関関係が前回よりも 向上したことが報告され た。一方、「肋の構造」

は、幾つかの国が国際 標準形質と異なる定義を 採用しているため、国間 の相関関係に影響してい ることが報告された。ま

た、「乳頭の長さ・太 さ」をテーマとして、ア メリカ・フランス・ドイ ツをはじめとする数ヶ国

からの調査結果報告と参 加者間でディスカッショ ンが行われ、前乳頭と比 較して「後乳頭」は年々

短くなる傾向にあり、極 端に短い乳頭や極端に細 い乳頭は、搾乳作業の効 率化と在群期間の短縮に

密接に関連するため、今 後も引き続きこの形質に 注視することとした。

後肢方向に 名称を変更

協議事項では、「後肢 後望」を新たに「後肢方 向・Rear Feet Orientation」へ名称変更すること を可決決定し、先に開催

されるWHFF評議員会 に提案することとした。 前回のイタリア開催で新

たな形質として採用を決定 した、「前肢方向・Front Feet Orientation」と同様 文を「方向」に統一することとした。

審査眼の統一

1日目午後2時～5時

2026年度 乳用牛改良推進協議会 乳用牛改良推進実施計画

7月6日、乳用牛改良 推進協議会は2026年度 乳用牛改良推進実施計 画を発表した。

同協議会では、モニタ 評価(以下、G評価)を 活かして、遺伝的能力等 の情報発信を積極的に進

め、情報の活用促進 として、情報関係者と 連携し、優良な国産種 牛の作出・利用拡大等

に取り組む。我が国の 乳用牛の生涯生産性を 高めるためには、泌乳 能力とともに長命産性

に関する耐久性や繁殖 性、疾病抵抗性等の改 良が課題である。一方、 高湿多湿な日本の飼養 環境の下で発揮される

遺伝的能力を、より幅 広く活用する。このた め、2026年度に

基本方針 3つの柱と7項目

乳用牛の生涯生産性を 高めるためには、泌乳 能力とともに長命産性 に関する耐久性や繁殖 性、疾病抵抗性等の改

良が課題である。一方、 高湿多湿な日本の飼養 環境の下で発揮される 遺伝的能力を、より幅

広く活用する。このた め、2026年度に

次回WSはNNL

最後に参加国から体 形審査における現況と酪 農情勢等について報告が 行われ、最後に、出席者 から開催国ハンガリー・ホル

スタイン協会に対して感 謝を述べて2日間の日程 が終了した。

次回WSはNNL

最後に参加国から体 形審査における現況と酪 農情勢等について報告が 行われ、最後に、出席者 から開催国ハンガリー・ホル

スタイン協会に対して感 謝を述べて2日間の日程 が終了した。

次回WSはNNL

最後に参加国から体 形審査における現況と酪 農情勢等について報告が 行われ、最後に、出席者 から開催国ハンガリー・ホル

スタイン協会に対して感 謝を述べて2日間の日程 が終了した。

次回WSはNNL

最後に参加国から体 形審査における現況と酪 農情勢等について報告が 行われ、最後に、出席者 から開催国ハンガリー・ホル

スタイン協会に対して感 謝を述べて2日間の日程 が終了した。



コシュート2000牧場(ドモニヴォルジ村)

遺伝評価 公表スケジュール	種雄牛評価	雌牛評価	国際評価
2026-08月	2026年08月04日	2026年08月04日	2026年08月18日
2026-11月		2026年11月24日	2026年12月01日
2027-02月	2027年02月09日	2027年02月09日	
2027-04月			2027年04月13日

ユージンランドでの開催を予定している。



実践的セッション(サノ農業研究所)

牛群改良で未来を築く

審査日程

令和8年10月～令和9年3月

中国・四国地区	北陸・中部地区	東北地区
鳥取 10月19日～28日	新潟 10月13日～16日	青森 10月13日～16日
島根 10月29日～30日	富山 10月05日～06日	岩手 11月02日～12月04日
岡山 11月04日～13日	石川 10月07日	宮城 11月16日～20日
広島 01月19日～22日	福井 10月08日	秋田 10月19日～23日
山口 01月25日～26日	山梨 10月21日～23日	山形 11月24日～27日
徳島 10月29日～30日	長野 01月18日～22日	福島 12月07日～11日
香川 10月28日	岐阜 10月26日～30日	
愛媛 10月05日～09日	静岡 12月01日～03日	
高知 10月26日～27日	愛知 11月18日～27日	
	三重 11月17日	

九州地区	近畿地区	関東地区
福岡 01月18日～27日	滋賀 12月01日～02日	茨城 01月12日～19日
佐賀 01月19日～20日	京都 12月03日～04日	栃木 12月01日～17日
長崎 01月21日～22日	大阪 01月22日	群馬 11月26日～27日
熊本 11月24日～12月18日	兵庫 01月18日～21日	千葉 01月13日～29日
大分 11月17日～20日	奈良 11月17日～18日	東京 11月18日～19日
宮崎 12月09日～18日		神奈川 11月26日～27日
鹿児島 12月09日～18日		
沖縄 01月14日～15日		

(注)日程の詳細は各都府県の日本ホル協支部・承認団体に お問い合わせください。

善を行うための取り組みを進めてきた。しかしながら、2025年度には調整交配の実施率が低迷し、必要なデータが十分に得られなくなる懸念が増大している。

このため2026年度は、次の3つの柱・7項目を基本方針として、7項目の飼養環境の継続・強化と国産種雄牛の活用拡大に取り組むこととする。

(1) 日本の飼養環境に即した遺伝的能力評価の強化

①調整交配の改善
海外とは異なる日本の飼養環境の下で発揮される遺伝的能力を評価する。国内G評価の信頼性維持と向上に必要な最新データの収集と評価の開始。向上に必要な最新データの収集と評価の開始。向上に必要な最新データの収集と評価の開始。

②暑熱耐性の信頼度向上
乳量及び体細胞スコアへの影響を指標とした現行の暑熱耐性について、より評価の信頼度が高く利用しやすい評価方法へ改善する。また、より早く影響が見られる乳中成分情報(BBB)を指標とした評価方法の開発を進める。

③評価形質の充実
分娩管理情報として活用が期待できる産子の在胎期間を2027年2月に公表する。また、肢蹄に関する体形形質、歩路、蹄の厚さ及び後肢骨質の充実や蹄病に対する抵抗性の評価方法並びに肢蹄を強くするための指数的開発に取り組む。

(2) 日本の飼養環境に合った国産種雄牛の活用拡大

④近交の影響を抑制した効果的な改良技術の開発
国内の診療データ等に基づき疾病や生存性への近交の影響を明らかにし、SNP情報を活用した近交上昇の影響を抑制する技術について検討を進める。

⑤国内評価の有効性等の情報発信と連携を深めるための取り組み
よりわかりやすい、見やすく使いやすい情報の発信に努め、亦本報では電子化する。説明会や勉強会、意見交換の場などを充実する。特に、暑熱耐性、疾病抵抗性、繁殖性など、飼養環境の影響が特に大きい形質における国内評価の有効性の理解醸成に集中的に取り組む。

⑥ヤングサイアの活用拡大
前記の取り組みを進めつつ、3割程度に高まったヤングサイアの活用をさらに拡大し、国産種雄牛による乳用牛改良の加速を図る。

(3) 雌牛G評価の普及促進
①として、日本の飼養環境に即した雌牛G評価について、評価形質が充実し速やかな情報提供も実現したことを踏まえ、対象を血統登録・牛群検定牛から拡大することを検討する。普及促進を図る。

また、遺伝的能力評価の確立事項として①在胎期間の評価開始、②公表スケジュール等が提示され、2027年2月評価は、飼養形質の1つとして遺伝的能力評価が公表予定である。③公表スケジュールについては表の通り、種雄牛評価(表内種雄牛)・年2回、雌牛評価及び国際評価(海外種雄牛)は年3回と従来どおりである。

最後に乳用牛改良推進協議会は、我が国の乳用牛改良が多くの課題を抱える中、関係団体が同じ一体となつて課題解決に取り組むため、令和2年11月に設立された。(独)社団法人家畜改良事業団の5団体に、本年度から新たに北海道ホルスタイン農業協同組合(公社)北海道酪産物検査協会の2団体に加わった計7団体から構成されている。

日本ホル協特集

全国酪農協会 会員の皆様へ

酪農がん共済制度のご案内

(団体総合生活保険 がん補償)

●患者申出療養も補償されています
(がん患者申出療養の活用で最新の治療も可能)

がん診断
がん診断保険金

がんと診断確定されたときに、**100万円**をお支払いします。

※1 がんの診断確定は、病理組織学的所見により、医師等によって診断されることを要します。(50歳以上50万円タイプ有り)

- がんと診断されたら**100万円** (がん診断保険金100万円タイプの場合)
- 上皮内がんも**100%**給付
- がん診断保険金は**何回でもお支払い**します (支払条件あり)
- 80歳まで補償を継続**できます
(ただし、71歳以降の新規加入は出来ません。ご継続内容はがん診断保険金50万円タイプとなります)

この広告は東京海上日動火災保険株式会社を引受保険会社とする団体総合生活保険(がん補償)の概要についてご紹介したものです。ご加入者の保険期間(補償期間)の初日よりその日を含めて90日(待機期間)を経過した日の翌日午前0時より前にがんと診断確定されていた場合は、保険金をお支払いできません。ご加入にあたっては、必ず「重要事項説明書」をよくお読みください。ご不明点等がある場合には、下記「お問い合わせ先」までお問い合わせください。

保険金額・毎月の掛金について					
◎毎年3月1日時点(団体契約の保険期間の初日時点)の満年齢に応じた掛金に変わります。					
加入タイプ (男女共通)	本人型 がん診断保険金額		加入タイプ (男女共通)	本人型 がん診断保険金額	
	100万円タイプ	50万円タイプ		100万円タイプ	50万円タイプ
掛金(月払)	15～19歳	500円	掛金(月払)	50～54歳	2,600円
	20～24歳	500円		55～59歳	3,200円
	25～29歳	500円		60～64歳	4,000円
	30～34歳	700円		65～69歳	4,800円
	35～39歳	1,000円		70歳	5,600円
	40～44歳	1,400円		71～74歳	2,800円
	45～49歳	2,000円		自動更新後の 保険金額は 50万円タイプのみ	3,300円

2025年2月作成 24TC-006885

お問い合わせ先
一般社団法人 全国酪農協会 (共済担当)
〒151-0053 東京都渋谷区代々木 1-37-2 酪農会館5階
TEL: 03-3370-5488 (共済担当直通) FAX: 03-3370-3892

代理店
株式会社 保険代行社
住所: 〒141-0031 東京都品川区西五反田 3-7-14 三信ビル9階 TEL: 03-6631-4366 (受付時間/平日9:00～17:00)
引受保険会社
東京海上日動火災保険株式会社 (担当課) 広域法人部 団体・協同組織室
住所: 〒102-8014 東京都千代田区三番町 6-4 TEL: 03-3515-4151 (受付時間/平日9:00～17:00)